令和６・７年度　　港区教育委員会研究奨励園
令和６・７年度　　東京都体育健康教育推進校

研究主題

「意欲的に遊ぶ幼児を育てる」
～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～

港区立中之町幼稚園

目　次

あいさつ…… 1
はじめに…… 1

Ⅰ　研究の概要…… 2
　1　主題設定の理由…… 2
　2　研究構想図…… 3

Ⅱ　研究の内容と方法…… 3
　1　主題の捉え…… 3
　2　事例検討…… 3
　　実践事例1　色が変わった！　4歳児6月…… 4
　　実践事例2　ヤゴがトンボになりそうだよ！　5歳児5月…… 5
　　実践事例3　ダンゴムシいるかな　3歳児4月…… 6
　　実践事例4　探検のおうちをつくろう　3歳児11月…… 7
　　実践事例5　かたいおだんご　3歳児3月…… 8
　　実践事例6　砂場の水流し遊び　5歳児5月…… 9
　3　幼児とともにつくる環境のデザイン…… 10
　4　季節によって変わる園庭…… 12

Ⅲ　研究のまとめ…… 16
　1　研究の成果…… 16
　2　今後の課題とさらなる発展に向けて…… 16

あいさつ

港区教育委員会教育長　**新宮　弘章**

中之町幼稚園では、研究主題を「意欲的に遊ぶ幼児を育てる～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～」とし、令和６・７年度港区教育委員会研究奨励園及び令和６・７年度東京都体育健康教育推進校として、２年間にわたり研究を進めました。研究では、園舎改築に伴って新しくなった園庭の環境を中心に、「関わりたくなる自然環境の工夫」「使いたくなる場やものの工夫」「遊びの伝承・人と人とをつなぐ工夫」の三つの手だてから、幼児一人ひとりの興味や関心をとらえ、幼児が意欲的に園庭で遊ぶための工夫を重ねてきました。

この研究により、幼児にとって園庭が身近で魅力ある場となり、幼児が虫を発見したり泥団子の作り方を試行錯誤したりする姿や園の文化として遊びが継承していく姿が見られるようになったことは、大変意義深いものです。

各園・学校におかれましては、本園の研究成果を活用し、質の高い幼児教育の実現や、幼稚園教育と小学校教育との円滑な接続に向け、より一層、御尽力いただきますようお願いします。

結びに、御指導・御助言を賜りました前聖徳大学大学院教授篠原孝子先生、元東京都教職員研修センター研修指導員大竹節子先生そのほか関係者の皆様に感謝申し上げるとともに、研究を進めていただきました酒井正美園長をはじめ、教職員の皆様に心から敬意を表します。

はじめに

港区立中之町幼稚園　園長　**酒井　正美**

中之町幼稚園の園舎は、同敷地内の赤坂学園赤坂中学校と共に、令和４年７月に落成、令和５年８月には、園庭も完成しました。明るく心地よい空間が広がる幼稚園では、日々、幼児たちの遊びや生活が展開されています。

ビオトープや広い砂場のある園庭、完成を待ち望んでいた園庭ですが、当初は園庭での遊びが充実しにくい実態がありました。教員たちは、「園庭でのびのびと遊んでほしい。」「楽しい遊びが展開される園庭にしていきたい。」と願いをもちました。新たに出来上がったばかりの園庭を、「豊かな遊びがあふれる園庭」とするためには、どのような環境の工夫や援助が必要なのか、実践と評価を繰り返し行ってきました。

幼稚園教育は、その後の学校教育全体の生活や学習の基礎を培う役割を担っています。幼稚園教育において育みたい資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」を「幼児期にふさわしい生活」を通してしっかりと育んでまいります。

結びになりましたが、私たちの研究を温かく見守り、多くのご指導をいただきました講師の皆様に深く感謝申し上げますと共に、このような研究の機会をくださいました港区教育委員会の皆様に心より感謝申し上げます。

Ⅰ 研究の概要

1　研究構想図

教育目標

○げんきなこ　○かんがえるこ　○なかよくするこ　○がんばるこ

実態

- 令和４年９月に新園舎、令和５年９月に新園庭が完成した。
- 新園舎移転から園庭完成までの約１年間、園庭で遊ぶことができなかった。
- 身近な自然が少ない。
- 明るく人懐こい幼児が多い。教師の提示したものに進んで取り組む幼児が多い。
- 乳幼児期をコロナ禍で過ごしてきたこと、園庭がない時期を過ごしてきたことから、外遊びの経験が少なく、遊びの中で様々な人やもの、ことに触れる経験が少ない幼児が多い。
- 自分から戸外に出て遊ぶ習慣がなく、室内のみで遊ぶ幼児が多い。
- 体を動かす機会の少なさから、動きのぎこちなさが見られる。

背景

- 幼稚園教育要領
- 港区教育委員会
  港区教育ビジョン
  港区学校教育推進計画
- 港区幼児教育振興
  アクションプラン
- 港区版
  架け橋期のカリキュラム
  ―接続のとびらをあけて―
  など

目指す幼児像（意欲的に遊ぶ幼児）

信頼関係や安心感が心の土台にあり、心と体を十分に働かせ、自分のやりたいことに向かって伸び伸びと取り組む幼児

研究主題

「意欲的に遊ぶ幼児を育てる」
～豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助～

仮説

異年齢の幼児が関わることのできる園庭で、教師が幼児の発達や実態に合わせた園庭環境の工夫と援助をすることで、にぎわいのある遊び、遊びの伝承が生まれるであろう。その中で、幼児が自ら環境に関わり、意欲的に遊ぶことで、幼児期に育みたい資質・能力が育まれるであろう。

手立て

○関わりたくなる自然環境の工夫　○使いたくなる場やものの工夫　○遊びの伝承・人と人とをつなぐ工夫

2　主題設定の理由

本園は、令和４年９月に新園舎、令和５年９月に新園庭が完成した。新園舎への移転から新園庭完成までの約１年間、園庭がない時期を過ごしてきたこと、他学年が園庭で遊ぶ姿を見ていないことから、園庭が完成しても進んで戸外で遊ぶ姿があまり見られなかった。また、乳幼児期をコロナ禍で過ごしてきたことから、外遊びをする機会や、遊びの中で様々な人やもの、ことに触れる機会が少なかった幼児が多い。このような実態から、幼児が自ら環境に関わり、意欲的に遊ぶようになってほしいと考えた。さらに、教師自身は園庭が使えない期間の教育活動の難しさや、幼児の実態から園庭が幼児にとって大切な学びの場であることを改めて感じ、幼児が様々な人やもの、ことに触れ、学ぶことができる環境をつくり上げていく必要感をもった。そこで、幼児の豊かな遊びでにぎわい、異年齢の幼児が関わって遊ぶことができる園庭を、豊かな「遊びと体験」が生まれる場と考え、園庭環境の充実と幼児の学びに着目して研究主題を設定した。

Ⅱ　研究の方法と内容

1　主題の捉え

私たちは、主題を以下のように捉えて、研究を進めることとした。目指す幼児像である「意欲的に遊ぶ幼児」とは、信頼関係や安心感が土台にあり、心と体を十分に働かせ、自分のやりたいことに向かってのびのびと取り組む幼児のことである。「意欲的に遊ぶ幼児」を支えるのは、「豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助」である。「豊かな遊び」の場面とは、園庭に遊びの拠点やにぎわいがあること、幼児が夢中になって遊んでいること、感情を出しながらものや場と関わり遊んでいること、したいことがあること、一緒にいたい仲間がいること、自分の思いをもっていることなどとした。

「豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助」に支えられ「意欲的に遊ぶ」ことを通して、幼稚園教育において育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」が育まれていく。本園の「豊かな遊び」「意欲的に遊ぶ幼児」を表す具体的な姿と「幼稚園教育において育みたい資質・能力」を、以下のように整理した。

知識及び技能の基礎

気に入った遊びに繰り返し取り組む
草花を遊びに取り入れる
花びらから色を出す方法を知る
様々な気付き、発見の喜びを味わう
生き物の生態を知る
遊びに必要なものをつくる
水を流すために試行錯誤する　　など

思考力、判断力、表現力等の基礎

気付いたことを教師や友達に伝える
見比べる　　試行錯誤する
予測を立てる　　試す
振り返る　次への見通しをもつ
虫のいる場所を考える、予想する
好きな色や形を選ぶ　　自分なりの表現をする
新しいものに興味をもつ　　　など

目指す幼児像（意欲的に遊ぶ幼児）

安心、安定して過ごす
友達と同じことをやってみようとする
美しさや面白さを感じる
気付き、発見し、心が動く　　感動を分かち合う
探究心や好奇心が深まる　友達と関わることを喜ぶ
相談する　　　繰り返し取り組む
憧れる　　　教える、教えてもらう　　　　　など

学びに向かう力、人間性等

豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助

2　事例検討

幼児の意欲を引き出す効果的な援助や環境の工夫として、「関わりたくなる自然環境の工夫」「使いたくなる場やものの工夫」「遊びの伝承・人と人とをつなぐ工夫」の三つの手立てを用いることとした。それぞれの手立てを行った場面の事例から、どのような資質・能力が育まれているかを考察した。

「やってみたい」から気付き、取り入れ、繰り返す
手立て＜関わりたくなる自然環境の工夫＞

実践事例１『色が変わった！』　４歳児　６月上旬　**遊びの拠点**　保育室前、水道前

　教師が、袋の中に落ちているサルビアの花びらと水を入れ、揉んで見せた。A 児が教師のまねをして取り組むが、A 児「色が出ないよ」と教師に見せてくる。水の量が多く、揉みにくい様子だったため、水を減らすことを知らせると、A児「このくらい？」と確認しながら水を入れ直し、「えい！えい！」と花びらをつぶすように揉んでいく。A 児「色が出てきた！」B 児「見せて！本当だね」と喜び合いながら、色を出すことを楽しんでいた。その様子を興味深く見ていた C 児に、教師が「A ちゃんがお花の場所を教えてくれるよ」と声を掛けると、A 児も B 児も「こっちだよ！落ちているのを使うんだよ」と教えてあげる姿があった。

＜これまでの環境の工夫＞

- 色水遊びができるように、サルビアや赤シソを意図的に植えた。
- 自分で遊び進められるように、用具を用意した。（水、カップ、ビニール袋）
- 幼児の目につきやすい水道とプランターの中間地点に遊びの場を設定した。（保育室前）

自分で水の量を調整して入れられるように「カップの半分くらい入れたよ」と声を掛けよう。

園庭の草花を遊びに取り入れてほしいな。

幼児同士で草花の場所を教え合えるような声掛けをして、見守ろう。

教師の意図や思い

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎

- ビニール袋に水と花びらを入れて、手で揉むと色が出ることを知った。
- 園庭には、自由に使ってよい赤シソやサルビアがあることが分かり、草花を遊びに取り入れて遊ぶ楽しさを感じた。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- 繰り返し遊ぶ中で、「花びらをたくさん入れると色が変わる」ということを学び、やってみようとしたり、教師や友達と自分のものを見比べて水を少なくしたりするなど、水の量に気付きながら取り組んでいた。
- 気付いたことを教師や友達に自分の言葉で伝えていた。
- 友達が遊ぶ姿を見て、自分なりに用具を使ったり、「どうやって作るの？」と聞いたりして取り組んでいた。

学びに向かう力、人間性等

- 水に花びらを入れると色が変わる不思議さや水や花びらの量によって違う色になることへの驚きを感じた。
- 色水の美しさやおもしろさを感じ、心が動いた。

体験を通して感じる生命の大切さ
手立て＜関わりたくなる自然環境の工夫＞

実践事例２『ヤゴがトンボになりそうだよ！』　５歳児　５月上旬　**遊びの拠点** にこにこ池

Ｄ児が池でヤゴを発見し「ヤゴがいるー！！」と大きな声で教師や友達に知らせながら「ヤゴが孵化（羽化）してる！！」と言う。教師は「Ｄくんが何か見付けたって！」と言いながら駆け寄り、「よく見つけたね」とＤ児に声を掛ける。Ｄ児「この前ここ（背の高い草の下あたり）にヤゴがいたから、今日もいるかなぁと思ったんだよ」と話す。「触りたい！」と手を伸ばしたＥ児に教師が「羽を乾かしてるから触ってはいけないよ。じっと見るだけだよ」と声を掛けると、Ｄ児も「飛べなくなっちゃうよ」と言う。興味をもったＦ児がよく見るために手を伸ばそうとすると、Ｅ児が「触っちゃダメだよ！羽を乾かしてるんだよ」と教わったことを知らせる。３歳児や４歳児の幼児が見にくると、Ｆ児はヤゴに触らないように気を配っていた。保育室に戻った後も、Ｄ児「今日はヤゴが見れて本当にいい日だったね」Ｅ児「きっとトンボになったよね」と満足そうに話していた。

＜これまでの環境の工夫＞

- ヤゴが羽化しやすくなるように池に背の高い草を植えたり、池の環境を整えたりした。

Ｄ児のヤゴを発見した喜びに共感しながらも、他の幼児もＤ児の発見に気付けるような関わり方をしよう。

今年度初めて羽化することができたから、じっくりと見られるように見守りながら関わろう。

教師の意図や思い

興味をもっているＥ児やＦ児が今後ヤゴを自分で見付けられるように、Ｄ児にどこで見つけたのか聞いてみよう。

満足するまでヤゴの羽化を見られるように、片付けの時間を調整して遊びの時間を延ばそうかな。

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎

- ヤゴが羽化するときは、背の高い草に掴まり、時間を掛けて羽を乾かすことを知った。
- ヤゴが飛べるようになるまでは羽を乾かすため、触ってはいけないことを知った。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- 羽化しているヤゴには触ってはいけないことを知り、触りたい気持ちの友達や他学年の幼児に対して、ヤゴの羽は触らずに見ることを言葉にして伝えていた。
- 「体液が出てきたからもう少しでトンボになれる」「羽が硬くなってきたのではないか」と見通しや予測を立てながら観察していた。
- ヤゴの羽化を見た驚きや感動を友達と分かち合ったり、振り返ったりしていた。

学びに向かう力、人間性等

- 教師や友達と、驚きや感動を共有したことで、「このヤゴが最後にどうなるのか知りたい」「トンボになるまで見たい」という探求心や好奇心が深まった。

安心できる場で、虫との出会いを楽しむ
手立て<使いたくなる場やものの工夫>

実践事例3『ダンゴムシいるかな』 3歳児4月下旬　**遊びの拠点** 保育室前のテラス

　保育室前のテラス付近にダンゴムシ探しができる場所を設定した。登園後その場所に興味をもったG児・H児が一緒にダンゴムシ探しを始めた。土の部分を掘ってみるがなかなかダンゴムシは見つからず、「全然いないね」と教師とH児が話していると、以前、教師が動かしたプランターの下にダンゴムシがいたことを覚えていたG児が「これ（プランター）どかしてほしい」と教師に話した。教師がプランターの位置をずらすとたくさんのダンゴムシがいた。G児は「わぁ！いた！」とすぐに手を伸ばしてダンゴムシを捕まえ、カップにたくさん捕まえて笑顔を見せていた。

　翌日以降も、G児は同じ場所でダンゴムシ探しを楽しんだ。

＜これまでの環境の工夫＞

- プランターで囲った場所に黒土をおいて雑草を植え、ダンゴムシが生息しやすい環境をつくった。園庭のむしむしパラダイスから捕まえてきたダンゴムシをこの場所に放し、幼児が簡単に見付けて捕まえたり、見付けた嬉しさを感じたりできるようにした。
- 入園したばかりの幼児が安心して遊べるように、保育室から近い場所に設定した。

入園したばかりの時期だから、安心して幼稚園で過ごして欲しいな。

土を触ったり虫を捕まえたりすることが好きな子もいるかな。一人一人が好きな遊びを見付けて欲しいな。

いずれ、園庭のむしむしパラダイスに興味をもつきっかけになるといいな。

教師の意図や思い

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎

- プランターで囲われた黒土の湿った場所にダンゴムシがいることを知った。
- プランターの下にダンゴムシがいることを知った。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ダンゴムシがいる場所を考えたり予想したりしながら探した。
- 「ダンゴムシいたよ！」「いっぱいとれた」など、ダンゴムシを捕まえた喜びを言葉や表情などで近くにいる担任に表現した。

学びに向かう力、人間性等

- 保育室の近くにダンゴムシを探せる場所を設定したことで、幼児が幼稚園で安心して好きな遊びに取り組むことができた。
- 友達がダンゴムシ探しをしている様子に気付きやすい場であったことから、「やってみたい」と取り組む姿につながった。
- 身近な自然に興味関心をもち、楽しむことができた。

一人ひとりの楽しさが、テラスでつながる
手立て＜使いたくなる場やものの工夫＞

実践事例４『探検のおうちをつくろう』　３歳児　11月下旬　**遊びの拠点**　テラス、テラス前の園庭

Ｉ児が「森にバッファローが来るよ！」と教師を園庭に誘う。教師は「今日は双眼鏡をテラスでつくろうかな」と呟きながらテラスにテーブルを出し、紙テープやペーパー芯、セロハンテープなどを多めに用意する。周囲にいた幼児たちも「つくる！」「バッファローを探しに行こう」と集まり、すぐにつくり始めた。

Ｊ児が「おうちもつくった方がいいんじゃない」と言い、探検後に帰ってくる家をつくることにする。教師が「バッファローも来られる場所にしよう」とテラスから出てすぐの園庭にお風呂マットを並べると、Ｊ児たちもお風呂マットや衝立を運んで家をつくった。

森に動物を探しに行ったり、砂場にごちそうをつくりに行ったり、双眼鏡をテラスで直したりしながら、おうちごっこの動きを繰り返し楽しんだ。バッファローになりきったＩ児も、森で探してもらった後に家に入るなどして関わって遊んだ。

＜これまでの環境の工夫＞

・つくったものをすぐに使って園庭で遊べるように、テラスにテーブルを用意し、十分な数の製作に必要な素材(ペーパー芯、紙テープ、セロハンテープ)を十分な数用意した。

それぞれが楽しんでいることを言葉にして受け止めながら、友達と関わる楽しさも感じられるようにしたいな。

園庭での探検のイメージが途切れないように、テラスで双眼鏡をつくったり直したりできるようにしよう。

教師が一番に場をつくり始めることで、家をつくるきっかけになるようにしよう。

教師の意図や思い

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎

・保育室だけでなく、テラスで製作ができることを知り、取り組んだ。
・双眼鏡が自分にちょうどいい長さになるように、紙テープをセロハンテープでつなげた。

思考力・判断力・表現力等の基礎

・双眼鏡や家、ごちそうなど、遊びに必要なものを、材料、可動遊具等の教材を選び、つくった。
・「森」「バッファロー」「探検」等のイメージを友達と共有し、自分なりの表現を楽しんだ。

学びに向かう力、人間性等

・友達と同じものをもっていること、身に着けることのうれしさを味わっていた。
・それぞれがしたいことを楽しみながら、同じ場で友達と関わる楽しさを感じていた。

場所と物が繋ぐ遊びの伝承
手立て＜遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫＞

実践事例５『固いお団子』　３歳児３月下旬　**遊びの拠点** おだんごキッチン

　教師が「昨日は地球組がお団子つくってくれたんだよね」と声を掛けるとＫ児は「今から見に行こうって思ってたんだ！」と答える。
　20 個ほどあったお団子を手に取ったＫ児、Ｌ児、Ｍ児が「固い！」「白くなってる」「ぬるぬるしてない」と言う。
　Ｋ児らが「地球組ってすごい！」と言うので教師は「地球組ってすごいものがつくれるんだね」と答えた。
Ｋ児らは、「見て、こうしても壊れない」と、地面に落としてみたり、傾斜で転がしたりする。
　Ｎ児が傾斜にといを置き、お団子を転がす。「転がった」「コンコンって」などと言い合いながら、何度も繰り返した。
※地球組…４歳児

＜これまでの環境の工夫＞
- 園庭整備で、泥の感触が味わえるよう、「おだんごキッチン」の土に水を掛けたり掘り起こしたりしている。
- 前日に４歳児がつくった団子が乾燥して固まっていることが分かるよう、そのまま置いておいた。

昨日、４歳児がつくったお団子を見せてもらったから、今日は自分もやってみたいと思うかな。

「固くなるお団子をつくった４歳児はすごい」という思いに共感したいな。

固まっていることで、転がったり音が出たりする面白さや、いびつな形だからこその転がり方の違いに気付くと楽しくなりそう。

教師の意図や思い

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎
- 前日の４歳児の団子つくりの様子を見て、泥を手で丸めると団子になることを知った。
- 翌日、白っぽく固まっていることに気付いた。
- 固まった団子は簡単には割れないこと、いびつな形であることにより、それぞれが異なる転がり方をすることに気付いた。

思考力・判断力・表現力等の基礎
- 泥団子が固くなっていることに驚いた。
- 落とす場所や力の加減を変えて、固さを試した。
- 前日からの泥団子の変化を「ぬるぬるしてない」、不均等な転がり方を「コンコンって当たってる」、などと自分なりの言葉で表した。
- 以前に、といに傾斜をつけて石を転がしたことを思い出し、固い団子なら転がるのではないかと予想し、試した。

学びに向かう力、人間性等
- 前日に４歳児の様子を見たことで、自分たちもやってみたいという思いをもった。
- ４歳児に憧れの気持ちをもち、なぜそうなったかを教わりたい、つくる方法を知りたいという意欲が芽生えた。

場所と時間が繋ぐ遊びの伝承
手立て<遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫>

実践事例６『砂場の水流し遊び』　５歳児　５月中旬　**遊びの拠点** 砂場

５歳児の Ｏ 児ら３人は、登園後すぐに誰もいない砂場に瓶ケースとといを運ぶ。といを重ねた部分から水が漏れ、「先生、昨年の宇宙組はどうしてた？」と聞く。５歳児の担任が「昨年の宇宙組は水が流れていたね」「どっちに置くといいかな」などと、といの重なりに気付くように呟く。Ｐ 児がといの上下を変えたり傾きを直したりする。

４歳児の Ｒ 児たちが「何してるの？」「どうやったの？」と Ｏ 児らに次々と聞く。Ｏ児らは「上から流すんだよ」「まだ漏れちゃうんだ」などと言う。４歳児の担任は「どうやって流れるんだろうね」「宇宙組はどんなふうにつくったのかな」と幼児と一緒に見る。Ｒ児たちはしばらく見た後、「あれやろう！」とといを並べ始める。いきおいよく水を流すとといが倒れ、直して水を流すことを繰り返した。

数日後、３歳児の数人が、思いついたようにといを手に取り、といを並べて乗り物の遊具を走らせた。

※宇宙組…５歳児

<これまでの環境の工夫>

- ５歳児は広い砂場で十分に遊べるよう、登園後すぐに園庭で遊ぶ時間を設定している。意図的に時間差をつけ、４歳児、３歳児が後から園庭に出たときに、互いの遊びを見たり関わりをもてるようにしたりしている。
- 砂場が混み合うときは、互いの場が見えつつも、それぞれの遊びが落ち着いてできる距離を保つようにしている。

園庭に出たら、５歳児の遊びに興味が向くよう声を掛けよう。（４歳児担任）

といの重なりに困っているのかな。さりげなくヒントを呟いてみよう。（５歳児担任）

３歳児も興味をもって見ていたことを担任に伝えておこう。（４歳児担任）

教師の意図や思い

【考察～資質・能力の視点から～】

知識及び技能の基礎

- 水が上から流れることを知っているため、扱い慣れた可動遊具を使ってといに高低差や傾斜をつけた。
- 上のといと下のといの重なり方によって水の流れが違うことに気付いた。

思考力・判断力・表現力等の基礎

- ５歳児は、昨年度の５歳児の遊びを思い出し、自分たちもやってみたいという思いがあった。
- ４歳児は、試行錯誤する５歳児の姿を間近で見聞きしたことで、自分の遊びに取り入れたいと思った。
- ３歳児は、４、５歳児の様子から、新たな遊具（とい）に興味をもった。

学びに向かう力、人間性等

- ５歳児は、複数のといで水を漏らさずに流したいという目的をもって、試行錯誤しながら、友達と相談して取り組んだ。
- ４歳児は、５歳児の遊びに興味をもち、水を流すことに面白さを感じ、何度も繰り返した。「流すよ」「いいよ」などの友達とのやりとりを楽しんでいた。
- ３歳児は、４、５歳児の遊びからといに興味をもち、自分たちなりにといと水を使い、楽しんでいた。

3　幼児とともにデザインした環境

幼児が園庭で意欲的に遊ぶ姿を引き出すために、園庭の場やものを改善、工夫した。

おだんごキッチン

園庭で土に触れられる場所がなく、教師が場を設定したときにしか遊ぶことができなかった。幼児が主体的に土や泥と関わることができるように、荒木田土を入れた「おだんごキッチン」をつくり、専用の遊具を設定した。

テラス

新園舎の広いテラスを、通路としてだけでなく遊びの場として使えるように、教師が率先して遊びの場として使う姿を見せてきた。暑い日は日陰になり、雨の日にも屋根の下で遊ぶことができ、園庭と保育室をつなぐ場として幼児のお気に入りのスペースになった。

にこにこ池

園庭にできた池に、保護者の協力のもと石を入れたり、草花を植えたりして、幼児が池を囲みやすく、生き物が集まりやすい環境に改善してきた。池の名前は保護者にも募集して決めた。

むしむしパラダイス

園庭ができてすぐの頃、虫が集まる場所はプランターの下だけだった。園庭の奥まった場所を一部改修し、腐葉土や粗朶を用意したことで、ダンゴムシやナメクジなど生き物がたくさん集まる場になり、幼児がじっくり遊ぶ場になった。

可動遊具

園庭やテラスで幼児が場をつくって遊ぶことを楽しめるように、扱いやすい遊具の種類や量を検討し、遊びやすく片付けやすいように整えて用意した。新しい遊具は教師が使って見せることで、幼児が扱い方に気付いたり工夫して遊んだりするようになっている。

4　季節によって変わる園庭

その季節ならではの発見や遊びが経験できるように環境をつくった。

さくらちゃん〈旧園舎から
移植された園の
シンボルツリー〉
（桜の花びら）
ナモモ
サルスベリ
ハナモモ
ザクロ
ヒメリンゴ
アンズ
むしむしパラダイス
（ダンゴムシ・カナヘビなど）
あそびにつかえる
くさばなコーナー
5 歳児の栽培物
（スイカ・キュウリ・
ピーマンなど）
4 歳児の栽培物
（ナス・オクラ・マリーゴールドなど）

レモン
ミカン
サンショウ
キンモクセイ
モクレン
ミカン
ハーブのこみち
サクランボ
おだんごきっちん
にこにこいけ
（氷）
3歳児の栽培物
（ホウレンソウ・ハツカダイコンなど）
テラス

さくらちゃん
（落ち葉・紅葉）

サルスベリ

ハナモモ
（ハナモモの実）

ハナモモ
（ハナモモの実）

ザクロ

アンズ

むしむしパラダイス

ヒメリンゴ
（ヒメリンゴの実）

5歳児の栽培物
（ダイコン・ブロッコリーなど）

あそびにつかえる
くさばなコーナー

4歳児の栽培物
（カブ・キンセンカなど）

秋・冬

Ⅲ まとめ

本研究に取り組み、「幼児が意欲的に遊ぶ姿」を目指し、三つの手立て「関わりたくなる自然環境の工夫」「使いたくなる場やものの工夫」「遊びの伝承・人と人をつなぐ工夫」を使い、援助や環境の構成を検討し、実践をしてきた。実践を「幼稚園教育において育みたい資質・能力」から読み取り、評価し、さらに実践を重ねてきたことで、以下のような成果があった。

1　研究の成果

<「関わりたくなる自然環境の工夫」による変容>

教師が幼児に経験してほしいことを話し合い、園庭の環境を意図的に変化させてきた。幼児の興味や関心、疑問に寄り添い一緒に考えてきたことで、幼児は、園庭の自然物の場所や生き物のいる場所が分かり、興味をもち探したり、遊びに取り入れたりするようになっている。

<「使いたくなる場やものの工夫」による変容>

教師は園庭のそれぞれの場やものが幼児にとってどのような意味をもつか考え、意図して環境を構成したこと、モデルとして場やものを使う姿を見せるなどの援助をしてきた。園庭改修の時期に入園し、園庭で遊ぶことや遊び方を知らなかった幼児たちが、園庭で遊ぶ楽しさを積み重ねることで、進んで園庭の場やものに関わり遊ぶようになった。

<「遊びの伝承・人と人とをつなぐ工夫」による変容>

異年齢の関わりが生まれるように、教師同士が連携し、協働して機会や環境をつくってきたことで、幼児が異学年の遊びに興味をもち、見たりまねしたりする姿や、上の学年の幼児に憧れをもつ姿につながった。幼児が園庭で異年齢の幼児と関わり遊ぶことは、新たな関心や遊びの伝承といった遊びが生まれる要因となっている。

幼児の姿を「幼稚園教育において育みたい資質・能力」から捉える

資質・能力は、遊びの中で一体となり、幼児の姿として現れる。これまでの実践を、資質・能力の三つの柱、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」から捉えることにより、資質・能力が育まれる「豊かな遊びがあふれる園庭環境の工夫と援助」につなげてきた。

環境は、教師の意図と幼児の主体性が相互に絡み合いながら、教育的価値が生み出されていくものである。幼児の姿を予想し、教師が意図をもち環境を構成し、環境に関わる幼児の姿から、さらに幼児が主体的に友達や教師と共に環境を再構成できるようにする。この取り組みを、資質・能力の三つの柱から振り返り、翌日の環境の構成へとつなげた。本研究を通して、以下の成果があった。

○三つの手立てを用いることにより、教師同士が話し合い、幼児の遊びが生まれる園庭環境についての考えを共有し、改善に向けて協働した。このことは、全ての教職員で全ての幼児を育てる姿勢につながった。
○手立て、資質・能力の視点から園庭の環境の構成をすることで、幼児が自ら戸外に出て体を動かし遊ぶ場、中之町幼稚園だから展開できる遊び、遊びの場、遊びの伝承が生まれる園庭となった。
○意欲的に遊ぶ幼児を育てるために、園庭の環境に着目し取り組んできたことにより、幼児が自ら興味や関心をもち環境に関わり、試行錯誤を経て、関わり方を身に付けていくことを意図した幼稚園の教育において、毎日、連続性をもち、自分たちの場として繰り返し関わることのできる園庭は、なくてはならない教育資源であることを改めて強く認識できた。
○教師は、幼児の姿を予想し、意図をもち園庭の環境を構成、再構成をし、資質・能力の柱から取組を振り返り、次の環境の構成につなげてきた。幼児の育ちを見つめる中で、園庭の環境にどのような教育的価値があるのかを見い出す姿勢や力、幼児と共に環境をつくり出していく力につながった。

2　今後の課題とさらなる発展に向けて

園庭で遊ぶ幼児と教師は毎年入れ替わる。今後は、本研究の成果を教育課程、教育計画に位置付け、伝承、実施されるようにしていく。また、園庭は樹木が生長していく等、変化をしていく。近隣には自然豊かな公園やスペースがある。今年度の取組を土台に、今後の園庭の変化や近隣の環境を取り入れ、引き続き、にぎわいのある「豊かな遊びがあふれる園庭環境」を幼児と共に創造し、「意欲的に遊ぶ幼児」を育てるため、実践、評価を重ねていきたい。

本研究は、園庭に視点をもち進めてきたものであるが、「幼稚園教育において育みたい資質・能力」から実践を振り返り、評価し次の実践につなげる力は、どの場面においても同様である。本研究で学んだことを生かしていきたい。

御指導いただいた先生方

【令和７年度】

前聖徳大学大学院	教授	篠原　孝子　先生
元東京都教職員研修センター研修指導員		大竹　節子　先生
港区教育委員会事務局	学校教育部長	茂木　英雄
港区教育委員会事務局	教育人事企画課長	大久保　和彦
港区教育委員会事務局	教育指導担当課長	清水　浩和
港区教育委員会事務局	先端教育担当課長	溝口　貴裕
港区教育委員会事務局	幼児教育担当専門官	小久保　篤子
港区教育委員会事務局	統括指導主事	富樫　学
港区教育委員会事務局	指導主事	加藤　靖規
港区教育委員会事務局	指導主事	神村　和輝
港区教育委員会事務局	指導主事	三戸　大輔
港区教育委員会事務局	指導主事	花井　拓也
港区教育委員会事務局	指導主事	澁澤　宏美
港区教育委員会事務局	指導主事	田代　信善
港区教育委員会事務局	幼児教育担当専門官	宮城　玲子

【令和６年度】

元東京都教職員研修センター研修指導員		大竹　節子　先生
プロ・ナチュラリスト		佐々木　洋　様
園庭研究所	代表	石田　佳織　様
港区教育委員会事務局	学校教育部長	吉野　達雄
港区教育委員会事務局	教育人事企画課長	大久保　和彦
港区教育委員会事務局	教育指導担当課長	清水　浩和
港区教育委員会事務局	幼児教育担当専門官	小久保　篤子
港区教育委員会事務局	統括指導主事	下橋　良平
港区教育委員会事務局	指導主事	加藤　靖規
港区教育委員会事務局	指導主事	神村　和輝
港区教育委員会事務局	指導主事	三戸　大輔
港区教育委員会事務局	指導主事	山本　一輝
港区教育委員会事務局	指導主事	花井　拓也
港区教育委員会事務局	指導主事	澁澤　宏美

研究に携わった教員

【令和７年度】

園長	酒井　正美
主任	田口　真理
主任教諭	海野　智佳
教諭	佐野　緑
教諭	宮崎　奈津美
教諭	北村　紅音
教諭	大島　彩愛

【令和６年度】

園長	大橋　美都子
育休代替教諭	西澤　智恵子
育休代替教諭	大場　隆子

協力　園庭の図　井上　尚美

令和６・７年度
港区教育委員会研究奨励園
東京都体育健康教育推進校紀要

発行日　令和７年 11 月 14 日
発行者　港区立中之町幼稚園
園　長　酒井　正美
住　所　港区赤坂９－２－２６
電　話　03-3405-7619

令和６年度　５歳児　「楽しいがいっぱい♡中之町幼稚園の園庭」

令和７年度　５歳児　「園庭の木の名札」